岡本市長に改革の覚悟無し

まずは市長・幹部職員の給与カットを

痛み分かち合い財政改革急げ

柏原市は、議員定数や報酬の削減を打ち出したが、市長や職員に対しては手つかずのまま。特に市長や幹部職員の高給が問題だ。そこにメスを入れないで財政改革が進むはずがない。

いまや、倒産の危機にある自治体は少なくない。柏原市もその一つ。

九月三日の市議会で、三浦市長公室長は「柏原市行財政健全化戦略」の一環として議員定数や報酬、政務調査費等の削減を求める提案理由を述べた際、今年三月に市民から寄せられたパブリックコメントの一部を引用した。

「財政の健全化を推進する覚悟があるなら、市長以下、幹部や市議の報酬を半減し、市議の定数も半減するべき」

ところが、三浦室長は「市長以下、幹部や」の部分には触れず、市議の定数や報酬の削減を求めたのだ。

市長と幹部職員は会社でいえば社長と役員であり経営の責任者。自らの責任を棚に上げ議員にだけ報酬削減を迫る幹部職員には議員からも反発の声があがっている。

多すぎる職員、高すぎる給与

柏原市の改革手順は決定的に間違っている。まず手をつけなければならないのは市長および幹部職員の高給のカットなのだ。

この点、大阪府の橋下知事や名古屋市の河村市長は評価できる。河村市長は退職金の返上と給料の半減を明言し、その通り実行した。少々乱暴なやり方と言われながらも名古屋市民の支持を受けているのは、橋下知事同様「自分の身を削る」ことをしたからだ。

ところが、柏原市は市長の給与カットは微々たるものだし、部長職で約一〇〇〇万円という幹部職員の高給には何の手も付けられていない。

職員数も多すぎ、嘱託もいれたら一千人にもなる。真面目に激務をこなす有能な職員がいる反面、幹部の情実で採用された者など削減すべき人員も多いのだ。

給与総額一〇％削減すれば七億円の節約

単純計算で、議員の報酬を一〇％削減しても年間約二千万円だが、職員の給与総額を一〇％削減すれば約七億円にもなる。まずは市長、幹部職員から範を示すべきだ。岡本市長は就任以来、自分の給与を月にして五万円、年間六十万円カットしただけ。河村市長のように半減すれば、市民も議員も納得し、改革は進むに違いない。

また、職員の勤務ぶりはどうかといえば、真面目な職員もいる一方、芳しくない評判も漏れ伝わる。退職間近の現業職員は〝ワタリ〟（階級を上げることで退職金を上乗せすること）が常套化し、縁故採用も当たり前、タイムカードのない職場もある等々。

岡本市長はなぜそこにメスを入れないのか。若く働き盛りの職員まで一律に給与カットするのではない。職務怠慢や不正を厳しくチェック、そしてまずは経営破綻の責任者である市長、そして幹部職員が自ら率先して大幅な給与カットをするなど真摯な姿勢を示せば、心ある職員は必ず奮起するはずだ。

市長退職金廃止公約うやむやに

岡本市長は初当選のときはマニフェストに市長の退職金廃止を掲げていたが、再選にあたってはうやむやにしている。さらには、副市長一人、病院管理者、中司戦略室長という特別職を新たに増やした。昨年末より公務を休みがちの岡本市長、健康問題に自信がないためか補佐役ばかり増やしており、税金のムダ遣いだ。それほど健康が不安なら、いさぎよく市長の職を辞するのが市民のためだ。岡本市長でなければ市政が運営できないわけではないのだから。

それどころか、むしろ岡本市政には問題が多い。刑事被告人の採用、入札に絡む不正疑惑、不正を追及する議員への言論封殺、議会での暴言の数々…（左上囲み記事参照）。

岡本市長には、市民のため身を削るか、さもなくば職を辞するかの覚悟が必要だ。

独断専行の市政運営

２期目就任の最初の議会から、市長の独断に議会が反発、流会に。

刑事被告人を市の要職に

談合事件で逮捕・一審有罪の中司宏氏（前枚方市長）を市の要職に起用。新聞各紙も「前代未聞」と批判的報道。

独裁的な言論封殺、暴言

水道工事談合事件に関する浜浦議員の議会質問を動議連発で妨害。

中司氏の採用を質した橋本満夫議員を「おまえが辞めろ！」と罵倒。

まだまだある！ 柏原市政 岡本悪政の数々

東山地区の不法投棄疑惑

不法投棄で告発された悪徳業者は岡本市長後援会幹部で数十年の友人。

市財政はますます悪化

柏原病院は累積赤字１００億円、このままでは市も共倒れ。

「サンヒル柏原」を５億１５００万円で落札、市財政をさらに圧迫。

家庭ゴミ収集不正入札疑惑

市長の後援会有力者が実質的オーナーである２社が半数弱を落札。両者とも過去に問題を起こした悪徳業者。

この不正疑惑を質した浜浦議員を活動停止処分にして言論封殺した。

はまうら佳子の元気が出るコラム

結婚して夫婦ふたりで小さなデザイン事務所をやっていたころから、身辺にネコがいました。

出張などがあるとその世話を誰かに頼まないといけないので、何かと制約を受けますが、ネコのおかげでどれだけ癒されたか、言葉では言い尽くせません。

ネコを飼っていて感心させられるのは、子育て上手であること。子育ての基本はいかにうまく子離れの時期を見つけるかなんですが、動物たちはみごとなまでにさっぱりしています。

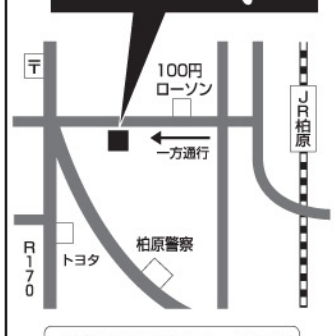
生まれたての子供には精一杯保護し、エサを惜しみなく与えます。その献身ぶりは感動的です。しかし、その子供が自分でエサを食べられるようになると、今度は「少しでも早く一人前になれ」とばかりに、面倒を見なくなります。

ところが、人間の場合はどうでしょう。いい歳した息子の身の回りの世話までしたり、就職の面接にまでついていく母親がいると聞きます。これではいつまでたっても、子供は一人前の大人にはなれません。

動物の子育てと人間のそれを同列に扱うわけにはいきませんが、動物や自然に教えられることは多いものです。子を虐待し、年老いた親を放置する人間世界を、彼らはどんなふうに見ているのか、ふと考えてしまいます。

パトロール

今年の夏の暑さは尋常ではなかった。特に心が痛んだのは暑さによる深刻な健康被害だった。お年寄りが熱中症のため室内で亡くなっていたという不幸な事故が何件もあった。九月になって暑さは和らいだが、油断は禁物。▼熱中症の予防法は、こまめな水分補給と、室内でも安心せず室温調整をすること。冷房がない場合は二カ所以上の窓を開け風通しをよくすることが必要だ▼健康が心配といえば、岡本泰明市長。昨年末から公務を休まれることが多い。病気は仕方ないが、問題は休みが一週間以上にわたる場合も権限移譲などに関する市民への説明がなかったこと▼今も万全ではないご様子。岡本市長には特にご自愛願いたい。柏原市政のトップ、もしものことがあっては大変だ。万一体調が思わしくない場合は、コソコソせずゆっくりご静養いただきたい。ただし、市民への説明責任を果すことをお忘れなく。熱中症予防と同じく「風通しのよい」ことが何より健全な市政の基本だから。

石臼手挽き
蕎麦切りの店
手打そば和


営業時間／11:30～14:30
18:00～20:30
定休日／月曜日
柏原市大正1丁目6-33 ☎971-6036